

Track B @Room A-0471

ラディカル AI 社会

破壊的 AI のインパクトが社会のすみずみまで浸透してきています。我々は、AI テクノロジーの進化を捉え、ビジネスに組み入れ、新たな世界を切り開いていかななくてはなりません。AI の実践的研究動向や、不確実で複雑な社会を扱う超理論などの導入的チュートリアル講演に続き、参加者の方々と深い議論をしたいと思えます。

13:00~

トラックの概要〔コンセプト〕と進め方などのオリエンテーション

テクノロジー (AI や IT) と社会 (制度やビジネス) との関わりについての課題について皆さんと議論してみようと思えます。つまり、(未解決の) 仮説をいくつか掲げてみましょう。大げさに言えば、このトラックの目標は研究テーマの設定です。

13:10~ 大槻繁 ((株)一)

ソフトウェアやシステムに代表されるテクノロジーとそれを取り巻く産業・組織・社会の変化について、いくつかの視点で解説してみたいと思えます。このシンポジウムの全体テーマの「超・個」概念や、不確実で複雑な社会の扱い方についての試みについても軽く紹介します。

#	旧	新
①	還元主義	言語ゲーム・複雑系
②	専門分化 (鎔壺的)	プラグマティズム
③	最適化・問題解決	創発・創造・イノベーション
④	ストック・モノ	フロー・コト
⑤	主体・実体	出来事・客体
⑥	客観	主観・間主観
⑦	データ	ストリーム
⑧	手順・逐次	関数・並行プロセス
⑨	機械的	生命的・進化
⑩	静的・クローズ	動的・オープン
⑪	技術主導	ディスコース

13:50~ 萩原正義 (Exscale Inc.)

AI の本質とは何かについて、実践的な事例 (例題) を採りあげて、多角的に分析してみます。実践的な AI システムを開発している第一線のアーキテクトとしての本音も聴けるでしょう。本当の第一線の探求者が何を視て、どういった事項が問題になっているのかをお話しようと思えます。

14:40~ ワークショップ (複数グループ)

2 件のスピーチを念頭において、いくつかの命題を選んで、グループ討議を行います。IT や社会システム、人材や組織戦略、倫理・道徳・哲学など参加者の方々の日頃の問題意識をぶつけてみましょう。

- 必然性から偶有性へ
 - > 計画駆動からアジャイルへ (by Barry Boehm等) のシフトがまだまだ進む
 - > ツール (AI) は不完全で、不確実、近似的なものとして利用⇒ゆるism
 - > 認識の変化をダイナミックに織り込むことが要請されている
 - > システムの作動ルールそのものを進化させていく仕組みを組み込むメタな視点が必要である⇒オートポイエーシス・システム、メタウェア
- 人材戦略の潮流
 - > 人材の二極化はもっと進む: イノベーターの多様化
 - > 一方で、オペレーション人材の標準化 (一律化) が進む⇒キーガンの成人発達理論
 - > 企業 (組織) の成長に効く、適正な人材選別・評価・配置方法が存在する
 - > IQ世界地図が示すように、AI利用面でも東洋・日本が優位になっていく⇒萩原さん予測
 - > これによる欧米のプラットフォームの戦略を注視し、日本の対抗策を考えよう
- 社会に溶け込むAI
 - > セキュリティをはじめ、未だ見ぬ社会・技術の進化に対応していくことが肝要⇒コキュア、信頼関係の再定義、新しい権利概念
 - > 民主化 (国民の意見の集約)、情報処理、社会制度との関わりが価値の源泉になっていく
 - > 多様な人々間のコミュニケーションを支援することが要請される⇒ガブリエルの他者性、統一理論 (世界) は存在しない、弁証法
 - > 倫理・道徳とは、多様な人々の考えの中庸を探る活動である⇒道徳哲学
- 残された課題
 - > AIの活用が徹底された時、人間が本来やるべきことは?⇒コンピュータ機能主義を越えて
 - > システムを取り巻く社会全体の文脈・文化をデザインしていくことは可能か?
 - > 今後、出現する新たなテクノロジー&ソシオロジー視点の課題は何か?

16:40~ まとめ

グループ討議の概要と、得られた仮説・課題を簡単に発表してもらいます。

~17:00

ここでの議論をベースに各自の自由研究を進めていただき、知働化研究会誌 Volume4 に投稿していただくのが理想です